

目的 体型と食生活は、他の生活現象と同様に自然環境や文化によつて、徐々に変化して行くものであることは、多数の資料で知らされてゐる事柄である。筆者は以前から高校生とその家族の栄養に関心をもち続けてきたので、国民の体位の平均値の向上や食品流通の変化の中で、現在の高校生の食物消費構造を明らかにしたい。

方法 広島市内の非農家世帯の生徒で占めるA高校の女生徒80名を選び、昭和52年11月中旬の平均的生活をしてゐる連続3日間を調査期間として、摂食状態を朝、昼、夕、間食に分けて調査を行ない、国民栄養調査の方法に準じて、食品群別摂取量をらびに栄養量を算出し、更に食品群間の相関係数を求めて、マトリックスを作製し、考察を深める。

結果、既に発表されてゐる昭和50年度における食品群別摂取量の全国平均値と、本調査の高校生の平均値との変動指数をみると、100以上のものは加工食品、卵、肉類、菓子、麦、調味・嗜好飲料の順に高く、反対に低い指数は海藻、いも類、豆類である。特に主食の米の変動指数は83であるが、麦は110である。

次に米と補完関係の食品群は、牛乳を除く動物性食品群と海藻、淡色野菜、豆類である。牛乳、嗜好飲料、麦、菓子、油脂及びその他の食品群は競合関係である。更に米以外の、それを別の食品群については目下考察中である。